



# 横浜市立恩田小学校 学校だより 3月号

発行 令和3年2月26日

恩田小学校  
HP⇒



## 不易と流行

校長 古屋 澄人

一斉臨時休業から始まった令和2年度も残すところ1カ月となりました。保護者、地域の皆様には、新しい生活様式のもと、学校教育活動にご協力いただきありがとうございました。子どもたちは制限のある中での学習活動となりましたが、今できることを精一杯取り組むことができたのではないかと感じています。また、今年度の教育課程は学習内容を重点化し、再編成して実施してきました。3月までにはすべての学年で今年度の教育課程を修了することができそうです。

さて、不易と流行という言葉があります。今年度は、学校行事等の内容変更、延期、そして中止を強いられてきました。しかし、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値があるもの（不易）」があります。学校教育においては、豊かな人間性、他人を思いやる心、自然を愛する心、自ら学ぶ態度の育成はいつの時代の教育にあっても大切にしてきたことです。本校においても、大切にしてきた活動として異学年交流を目的とした「たてわり班」での活動や、地域の学習材を活用した体験を重視した活動が挙げられます。今後も、自ら学ぶ態度、自然を大切に思いやる心を育む「不易」の教育を進めていきたいと思えます。

一方で子どもたちが活躍する将来を見通して行う教育活動も大切であり、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの（流行）」に柔軟に対応していくことが求められています。先日は、4年生社会の学習で横浜市資源循環公社の方がゲストティーチャーとして来校し、横浜市緑資源選別センターと教室をオンラインでつなぎ、ライブでの授業が実施されました。5年生は「総合学習」の取組について、高校も含め5校の生徒・子どもたちとオンラインでつながりあい意見交換会を行いました。ICT機器の活用が益々「流行」となりつつありますが、今後はこれが学習環境（インフラ）となり、ICT機器の活用が「目的」ではなく、子どもたちに応じた指導として「指導と学習の個別化」や「協働的な学び」を実現するための「手段」として柔軟に取り入れていきたいと考えています。

保護者の皆様からご協力いただいた学校評価アンケートを分析しました。どの項目もA（そう思う）B（どちらかというと思う）の割合が80%を占めており、一定の評価をいただきました。しかし、「幼稚園・保育園・中学校との連携」については、C（あまり思わない）が20%の割合でした。今年はコロナ禍で交流が制限されたこともあり、1年生は幼稚園と「手紙」での交流を行う予定です。次年度はICT機器の効果的な活用も踏まえて、より幼稚園・保育園・中学校との交流を充実させていきたいと思えます。

令和3年度も学校、家庭、地域とつながりあって学校教育活動を進めていきたいと思えます。引き続き、温かいご支援とご協力をお願いいたします。1年間ありがとうございました。